



子どもの貧困を考える ネットワークニュース

2025年2月号

隔月発行

発行:子どもの貧困問題

大阪ネットワーク理事会

2月15日(日)大阪グリーン会場

高校は子どもたちの成長の場



子どもの貧困ネット第10回総会が2月15日に行われました。記念講演にお招きした田中康之さん、勤めてこられた4校のうち3校が、府立高校つばしにより廃校になったとのこと。(長野北・平野・美原) そんな高校で共に過ごした生徒たちの姿などを、熱く語っていただきました。

信号待ちの軽トラから「先生！」の声

長野北高校で留年していたYくんは、3年の体育祭で「先生、80m走で、俺3連覇めざすわ。3連覇したら何かちょうだい」と私に言ってきた。留年生がガンバっている(2回目の1年と2年で80m走優勝)のだからと思い、3,000円でトロフィーを用意した。名前まで刻んだことはちょっと後悔したが、彼はなんと見事に優勝、3連覇達成となり、名前入りトロフィーは無駄にならずにすんだ。今でも思い出すのはトロフィーを渡したときの彼のうれしそう顔と、その時言った「4連覇したヤツいるか」の言葉。そうしたらまた留年しなければならないというのに…。

何でもいい、「自分もなかなかやるもんや」という自己肯定感を持つことが大切。そして彼は堂々と卒業し、ペンキ屋さんで就職していった。

大幅定員割れで、やんちゃで課題を抱えた生徒が多く入学してきた長野北高校の38期生、3年生になったのはなんと161人だけだった。無謀にも秋に「合唱コンクールをやりたい」と言い出し、放課後各クラスは課題曲と自由曲の練習に取り組むことになる。本番当日は、各クラス工夫をこらした素晴らしい歌声、そして最後は最優秀指揮者による学年合唱。保護者も教師も涙、涙であった。この勢いで161人全員が卒業していく。

これこそが「学校は生徒の成長の場である」ということではないだろうか。しかし当時の松井一郎知事は「定員割れする学校は魅力がない、そこに通う生徒は成長しない」と言っている。

公立高校の募集人数は中学卒業生数より多いのだから、必ず定員割れは起きる。私学の授業料無償化や公立の学区制撤廃によって、不便な学校には人が集まらなくなる。2024年の府立学校条例、そして40校が廃校に、という流れは結局作り出されたものだったといえる。

生徒数で経常費助成が決まるPer Head方式の私学も含め、生徒の奪い合い、生き残り合戦というのが大阪の高校の現状であろう。2023維新の府市マニフェストでは「府立高校民営化への推進」をあげている。カネのかかる公教育からは手を引く、一部のエリート校を除いては、というわけだ。「公立高校は学校がなくなる」これが教育行政のやることなのだろうか。

長野北高校での、顔と名前が一致するという161人の小規模学年と、不登校生も登校できたコロナ禍第一波での2交代制授業の経験から、私たちは、**教育効果が上がるのは少人数学級(20人)、小規模校(1学年5~6学級)**だと考える。教育行政のすべきことは、高校つばしではなく、子どもたちのことを考えた教育条件の整備ではないだろうか。

テスト前の夕方、勉強道具を取りに学校に来た勉強が苦手なJくん、土日家で勉強しようと思ったみたい。対応した若い先生に「このことを学年主任(田中)には言わんといて、学年通信に載せられたら恥ずかしいから」と言ったそうだ。

そのことを聞かされた私、嬉しかったことが2つ。1つは勉強の苦手な彼が進級したいとがんばっていること、そしてもう1つは**若い先生がそのがんばりをうれしく受け止め、私と共有してくれたこと**。これが教育ではないかと私は思う。

しかし、みんなで創り上げるという教育の営みを、教育行政がこわそうとしている。校長が評価をつける「評価・育成システム」や導入された「主務教諭」で教職員の分断、管理統制を強めている。教育行政が学校をつぶし、教育をつぶそうとするなんて許せない。

過度のストレスをためていたせいかわつ病を発症し、そのまま定年退職に。最後に女子生徒が書いてくれた言葉が「**先生は私の大きな応援団です。そして私も先生の応援団です。**」私もこれから子どもたちの応援団であり続けたい。

感想より

★学校は子どもにとっても先生にとっても、人生のすごい大切な絆をつくる場であることを感じました。やさしい先生はやさしい人をつくるんだなあー。

★千代田短大に2016年から7年間客員教員をした者です。長野北高校の卒業生が何人も入学してきていました。彼女たちの教員への信頼、深く考える力、また自分の言葉で綴る力の背景に、先生方・教師集団の努力があったのではと思いました。とても感動的なお話でした。

★とても感動しました。子どもたちを主体に、信じることの大切さを教えられました。大阪府の高校がこんなにもひどい状況だとは知りませんでした。子どもたちを大切にしたい教育のために、学校は廃校にしてはならないと思いました。行政を変えなくては！田中先生、お元気になられてよかった、子どもたちも喜んでいと思います。お話聞かせてもらって私の方が元気をもらいました。





特別報告 北川 拓先生

学生アンケートから見えるもの

大学生の生活保護に関する意識調査（対象：大学1・2年生46人、実施：2024年1月）が紹介された。調査項目の「生活が困窮した時に生活保護を申請するとして、心配になることは何ですか」に対して、最も多かった答えは「世間の生活保護に対する偏見や周りの目が気になる」だった。憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」は、権利であり国家の義務であるにも関わらず、生活保護に対するネガティブキャンペーンを通してのマイナスイメージが根強く、必要な人に対し申請を抑制する効果があることが、このアンケートからも読み取ることができる。

極度の貧困のために大学を卒業できなかった、二人の若者の事例が紹介された。「社会的虐待」の犠牲者ともいえる若者が多くいるという現実。彼らが「生活保護法」と「児童福祉法」の18歳の壁という福祉の谷間で、「助けて」の声も出せずにいるということを、私たちは認識する必要がある。

感想より

★貧困対策は未来への投資、本当にその通りだと思います。虐待による経済的損失についても論文を読んだことがあります。まだまだ一般的には、それぞれの家庭の事情で済まされていると感じます。社会的虐待がもたらす損失を社会全体で考えるべきだと思います。

子どもの貧困問題大阪ネットワーク

2025総括と2026方針が承認される

冒頭に中田理事長からの挨拶と浜理事による情勢報告がありました。そのなかで、とりわけ児童の買春に関わって「子どもの性の人格権」という新しい視点の重要性が示されました。

①調査広報・行政ワーキンググループ：大阪府が策定した「子ども計画（第7章子どもの貧困対策）」に基づき各自自治体も「子ども計画」を策定。その中の貧困対策がどのように書き込まれているかをしらべることとし、現在も調査中。

今年度は補助事業として位置付けている交野市との懇談を行っている。

②学習支援ワーキンググループ：調査活動としては子ども食堂にとどまっていた。2026年度は「子どもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」を実態化させるためにも、先進的事例に学ぶことは必要であり、引き続き検証していく。（特に交野市など）

③子ども食堂ワーキンググループ：日本の子どもの貧困率は11.5%、子ども9人に1人が貧困という現状だ。そんな中フードバンクやフードパントリーが盛んで、国の提供米の普及に協力している。今年度2か所の子ども食堂を見学した。子どもたちにとってなくてはならない存在だということと、運営は物価高騰の影響で財政面が厳しいことがわかった。

2026年度は、子ども政策先進自治体「子育てしやすい街ランキング」を参考に、明石市と交野市の訪問・学習活動に取り組みます。

④医療問題ワーキンググループ：今年度は、総会・理事会で、マイナ保険証をめぐる問題点や、大阪府の子ども医療費助成が他と比べて貧弱である点を論議した。

2026年度は、マイナ保険証の情報収集をする、皆保険制度を守る取り組みを進める、府の子ども医療費助成拡充や国保料の引き下げを求める等に力を注いでいく。

藤原事務局長から25年度決算報告と26年度予算案提案・江田監査委員からの監査報告を受け、中田理事長から次期役員提案を受けたあと、全ての議案を拍手で議決されました。

閉会の挨拶で戸井副理事長は、「維新の府知事・市長によるダブル選挙でかかった選挙費用は約28億円でした。しかし、大阪府が子どもの医療費を高槻市のように完全無料にするために必要な費用は約20億円であることが明らかになっています。選挙に28億円、子どもの医療費完全無料化には20億円。私たちは、この数字の持つ意味を考えなければなりません。財源がないのではなく、何に優先順位を置くのかという政治の姿勢の問題なのです。

子どもの貧困は「家庭の問題」ではなく「社会の貧困」です。制度は変えられる。優先順位は変えられる。そのために、私たちが声を上げ続けることが必要です。引き続き力を合わせてまいりましょう」と締めくくりました。



討論ではさまざまなご意見ご質問をいただきました

我々の活動課題に「学童保育」を加えてはどうか

★大阪府下及び全国でも学童保育の取り扱いについては差異がある。それを把握し知らせていきたい。学童保育連絡協議会とも連携していきます。

教育に関する制度・改変を把握し広報してほしい

★調査活動グループで調査、教職員組合とも連携していきます。

予算に示された口数と会員数との違いは?

★複数口の方が何人もおられるので、口数=会員数ではありません。ちなみに総会当日を含め多くの方にいただいており、感謝いたします。